



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

■ Report (主権者とはどういうことか!?)

1 講演概要

- (1) 日時
2026年5月26日(火) 14:00~15:30
- (2) 場所
平川市役所1階(アヴェッサ)
- (3) 講演内容
主権者とはどういうことか -政治参画を活発化させるために-
- (4) 講師
青森県立保健大学 准教授 小野 昇平 様
- (5) 主催者
平川市明るい選挙推進協議会(明るい選挙出前講座@平川市)



2 目的

若年層をはじめとする市民の主権者意識の向上を図り、政治や地域課題を自分ごととして捉える意識を醸成するとともに、主体的な政治参画及び地域社会への参加を促進することを目的とする。

3 内容(要約)

(0) はじめに

本講演では、青森県立保健大学 准教授 小野昇平氏を講師に迎え、「主権者とはどういうことか、政治参画を活発化させるために」をテーマとして講演が行われた。
講演では、若年層の投票率低下の現状や、日本の若者の政治意識・社会意識に関する調査結果をもとに、主権者教育のあり方や、若者が社会参加するために必要な視点について幅広く語られた。

(1) 若者の投票率の低下について

講演では、衆議院選挙・参議院選挙の年代別投票率データをもとに、10代・20代の投票率が著しく低い現状が示された。特に18歳・19歳に選挙権が引き下げられた後も、投票率は40%前後にとどまっており、20代前半ではさらに低下していることが説明された。
また、19歳の投票率が18歳より低い背景として、「進学や就職で地元を離れる」、「住民票を移していない」、「投票のためだけに帰省する負担が大きい」、といった事情が紹介された。
さらに、投票所の利便性向上や、商業施設での期日前投票など、若者や高齢者が投票しやすくする工夫についても触れられた。

(2) 日本の若者の意識の特徴

講演では、日本財団「18歳意識調査」の結果が紹介された。
調査によると、日本の若者は他国と比較して、「将来に希望を持ってない」、「自分に自信がない」、「自分の行動で社会を変えられると思っていない」、「社会との関わり意識が弱い」という特徴が見られるという。特に印象的だったのは、「私の行動で国や社会を変えられると思う」という質問に対して、日本の若者の肯定回答が他国より低かった点である。
また、「将来の夢を持っている」、「人に誇れる個性がある」、「他人から必要とされている」、といった項目でも、日本の若者は自己肯定感が低い傾向にあることが紹介された。
講師は、このような「自分には社会を変える力がない」という感覚が、政治参加への無関心につながっているのではないかと指摘した。

(3) 主権者教育とは何か

講演では、「主権者教育」の本質についても説明があった。
単に投票方法を教えたり、模擬投票を実施したりするだけではなく、「自分たちのことを自分たちで考え、決める経験」を積み重ねることが重要であるとされた。
具体例として、「学校行事の内容を生徒が話し合っで決める」、「公園整備について子どもたちの意見を聞く」、「地域課題について若者と議員が対話する」など、実生活に直結したテーマで意思決定に参加する経験の重要性が述べられた。また、子ども基本法の制定により、子どもに関わることについては、子どもの意見を聞くことが制度上も重視されるようになったことが紹介された。



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

Report (主権者とはどういうことか!?)

(4) 「自分ごと」として政治を考えること

講師は、政治課題の多くは一見すると「自分ごと」に見えにくいと指摘した。しかし実際には、「社会保障」、「子育て」、「教育」、「防災」、「地方自治」、「農林水産」、「環境問題」などは、地域生活や日常生活と密接に関係している。

そのため、「自分のことだけでなく、自分を含む“みんなのこと”として考える視点」が必要であると説明された。

また、若者が政治に関心を持つためには、「自分の意見が聞いてもらえる」、「実際に反映される」、「社会の一員として必要とされている」という実感が重要であるとの話があった。

(5) 若者の政治参加を促すために

質疑応答では、市議会議員のなり手不足や、若者の立候補についても議論された。

講師は、「若者と議員との接点を増やすこと」、「地域活動へ若者を巻き込むこと」、「若者の意見を真剣に受け止めること」、「『若者の力が必要だ』と伝えること」、が重要であると述べた。

また、若者は自信を持っていない傾向があるため、「褒めながら、一緒に地域づくりを進める姿勢」が大切であるとの意見が示された。

(6) おわりに

今回の講演を通じて、主権者教育とは単に投票率を上げることではなく、自分たちの社会を自分たちで考え、関わっていく力を育てる取組であることを学んだ。

政治参加を進めるためには、若者に対して「投票へ行こう」と呼びかけるだけでは不十分であり、自分の意見が社会に反映される経験や、地域とのつながりを実感できる機会を増やしていく必要がある。

今後は、学校・地域・行政・議会が連携しながら、若者が主体的に地域社会へ参加できる環境づくりを進めていくことが重要であると感じた。

4 所感

この「明るい選挙出前講座@平川市」を通じて、主権者教育とは単に投票率を上げるための啓発活動ではなく、自分たちの地域や社会のあり方を自分たちで考え、関わっていく意識を育てる取組であることを学んだ。

若者の政治参加を促すためには、選挙の大切さを伝えるだけでなく、日常生活や地域活動の中で、「意見を述べる機会」、「意思決定に参加する機会」、「その結果が反映される経験」を積み重ねることが必要である。

今後も関係団体と連携しながら、若者や子どもたちが政治や地域社会を身近に感じられるよう、地道な啓発活動を継続していきたい。

主権者教育とは

主権者として良識ある公正な判断力を身に付けることを目指した教育

ポイント
学校、家庭、地域が互いに連携・協働しながら社会全体で主権者教育を推進する必要がある

目的
政治の仕組みについて学ぶだけでなく、この社会を支える主権者として政治的教養を身に付け、社会への参加意識を高めていくことが求められる



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

■ Report (主権者とはどういうことか!?)

平川市への政策提言

～若者の主権者意識向上と政治参画の促進に向けて～

1 はじめに

講演では、若年層の投票率低下の背景として、**自分自身への自信の低さや、社会を変えることができるという実感の不足**が指摘された。また、主権者教育とは単に投票方法を学ぶことではなく、自ら考え、意見を表明し、その結果が社会に反映される経験を積み重ねることであるとの提言があった。これらを踏まえ、平川市に対し次の施策を提言する。

2 重点提言

(1) 若者と市議会・行政との対話機会の創出

市内中学校、高等学校及び高校生世代を対象に、市議会議員や市職員との意見交換会を定期的を開催する。若者が地域課題や市政について直接意見を述べる機会を設けることで、「自分の意見が社会に届く」という実感を持つことができる。また、議員や行政職員にとっても若者の視点を政策に反映する機会となる。

(2) 「平川市子ども・若者議会」の設置 ★平川市で「平川市こども議会」実施！

市内の小中高年生を対象とした模擬議会を実施し、地域課題について提案・討議する場を設ける。単なる体験学習ではなく、提案内容の一部を実際の市政や地域活動へ反映する仕組みを構築することで、主権者意識の醸成につなげる。

(3) 学校と連携した実践的主権者教育の推進

選挙制度の学習に加え、「学校行事の企画運営」、「校則の見直し」、「通学路や公園整備への提案」など、身近な課題について児童生徒が主体的に意思決定する機会を増やす。「**自分たちのことを自分たちで決める経験**」を積み重ねることで、将来的な政治参加につなげる。

(4) 若者政策提案制度の創設 ★平川市で「平川市ユース議会」実施！

高校生・大学生・若手社会人から地域課題に関する政策提案を募集し、優れた提案については行政が実証事業として実施する制度を創設する。若者の柔軟な発想を市政に取り入れるとともに、**地域への愛着や参画意識を高める**ことが期待できる。

(5) 若者の地域活動参加支援

町会活動や地域イベント、防災活動、ボランティア活動への若者参加を促進するため、「ボランティアポイント制度」、「表彰制度」、「地域活動参加証明制度」などを導入し、地域との接点を増やす。**地域への関心を高める**ことが、将来的な政治参加や地域リーダーの育成につながる。

(6) 若年層の投票環境の向上 ★平川市明推協で小中高向けに「選挙出前講座」「選挙用具貸出し」実施！

進学や就職で市外へ転出した若者に対し、「不在者投票制度の周知」、「住民票異動手続きの啓発」、「SNSを活用した選挙情報発信」を強化する。また、商業施設等を活用した期日前投票所の設置についても検討を進める。 ★平川市で**共通投票所設置**！

3 おわりに

若者の政治参加を促進するためには、「投票に行こう」と呼びかけるだけではなく、自らの意見が尊重され、地域づくりに参画できる経験を積み重ねることが重要である。平川市においても、若者が地域の一員として活躍し、自らのまちの将来を考えることのできる環境を整備することで、持続可能な地域社会の形成につながるものと考えている。